

2025年2月期 第3四半期

決算説明会

2025年1月9日



イオンフィナンシャルサービス

証券コード 8570(東証プライム・その他金融)

決算サマリ

国内外において営業債権残高が順調に拡大し、増収増益を継続

業績は順調推移

連結営業収益が順調増(YoY109%)、連結営業利益は379億円(YoY145%)と拡大

- 国内: 決済・銀行収益の拡大により個品割賦事業の譲渡影響を吸収 販促費等の費用効率の向上を継続
- 国際: 3エリアともに過去最高の営業収益 デジタルバンク開業費用を除く国際事業全体は増収増益

資産収益性の向上 : 高利回り営業債権残高(※)は過去最高

高利回り債権残高比率は継続拡大し(国内17.4%/YoY+1.2pt)、国際は1兆円に拡大

- 国内: 7,943億円(YoY111%/期首差+840億円)、国際: 1兆17億円(YoY111%/期首差+960億円)

特別損失にカード不正被害への補償費用を計上

特殊な手口によるカード不正利用が増加も、現在は対策により新規の被害発生を抑止

※債権流動化分を除く

※高利回り営業債権: 国内リボ・分割、キャッシング、無担保ローン及び国際事業における債権

2025年2月期 3Q累計 連結業績ハイライト

- 国内事業が回復したことにより、特別損失に、特殊な手口によるカード不正利用への補償費用(28億円)を計上したものの、すべての利益段階において増益

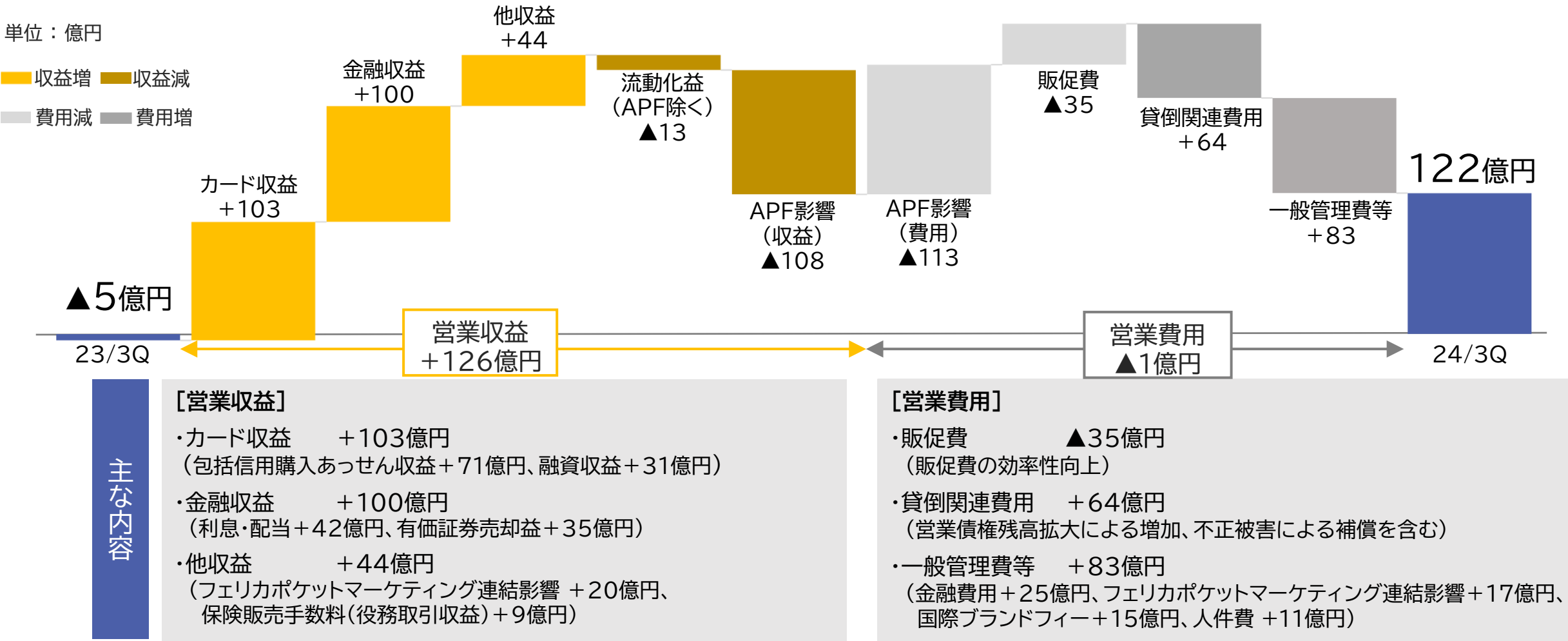
							24年度通期 連結見通し	進捗率
	連結	YoY	国内	YoY	国際	YoY		
営業収益	3,887 億円	109 %	2,264 億円	106 %	1,640 億円	114 %	5,200 億円	75 %
営業利益	379 億円	145 %	122 億円	- % (+128億円)	253 億円	96 %	550 億円	69 %
経常利益	389 億円	144 %	—	—	—	—	550 億円	71 %
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	137 億円	155 %	—	—	—	—	210 億円	66 %

2025年2月期 3Q会計期間(3ヶ月間) 連結業績ハイライト

	連結	YoY	国内	YoY	国際	YoY
営業収益	1,329 億円	112 %	780 億円	112 %	555 億円	113 %
営業利益	107 億円	185 %	27 億円	- % (+49億円)	78 億円	98 %
経常利益	118 億円	205 %	—	—	—	—
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	35 億円	219 %	—	—	—	—

[国内] 3Q累計営業利益 前年同期差内訳

- カード収益の順調な拡大及び金融収益計上により、APF影響を除いた収益は235億円増
- 貸倒関連費用は増加も、継続した費用管理によりYoY128億円増益

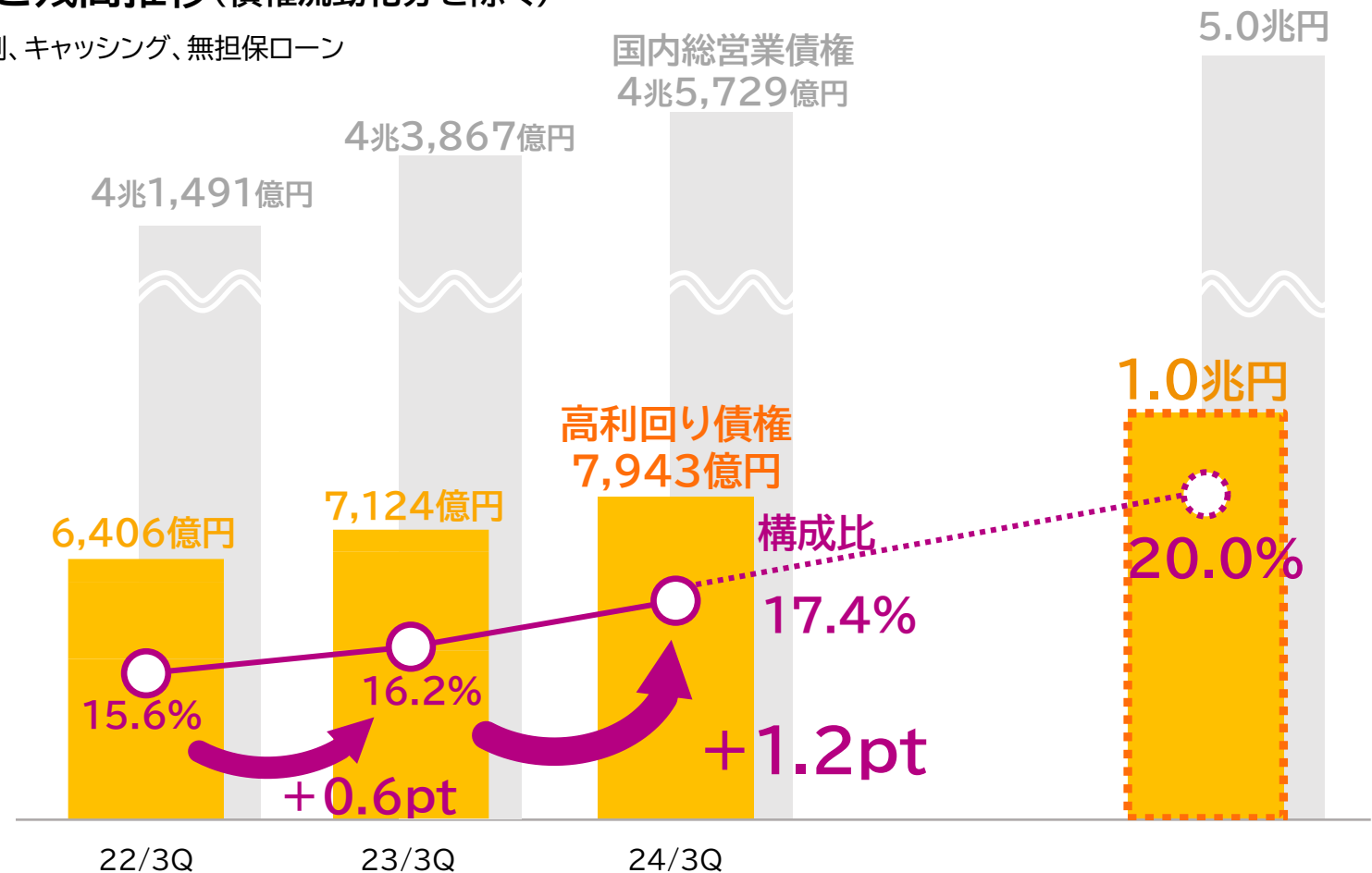


〔国内〕 ストック収益の基盤構築

- 国内営業債権残高に占める「高利回り債権比率」が改善し、資産収益性が向上
- 構成比は上期実績(17.1%)と比較しても向上し、より強固な収益基盤づくりを進める

高利回り債権比率と残高推移(債権流動化分を除く)

※高利回り債権: リボ・分割、キャッシング、無担保ローン

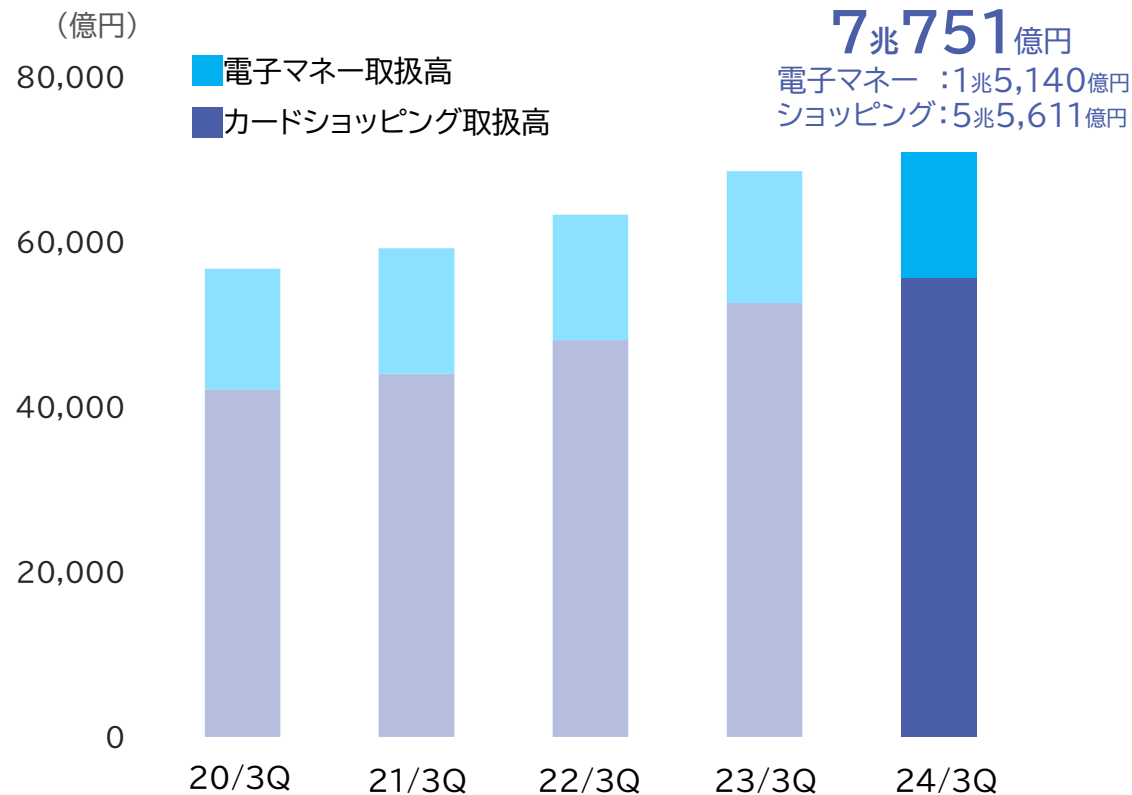


[国内] クレジットカード、電子マネー

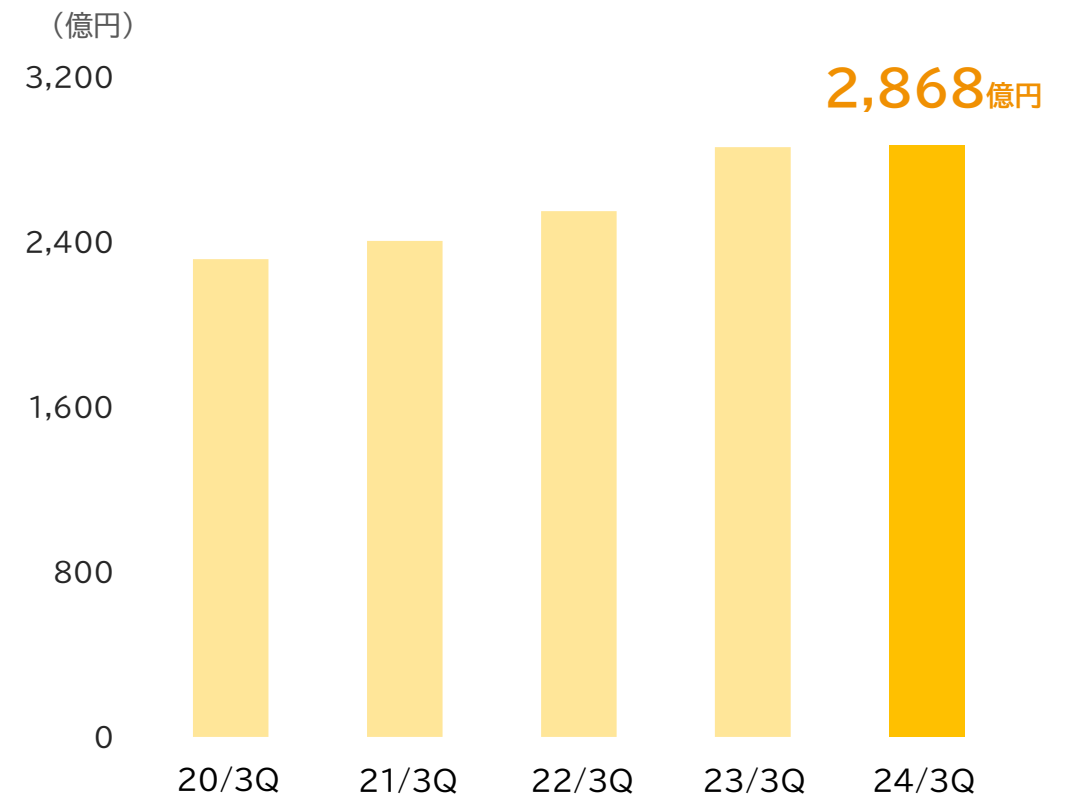
生産性
(収益拡大)

- ショッピング取扱高はゴールド感謝デーの浸透やAEON Pay利用促進が貢献しYoY106%
- キャッシング取扱高はアプリの改善等により、市場の取扱高が低下する中で前年を上回る(YoY100.3%)

決済取扱高



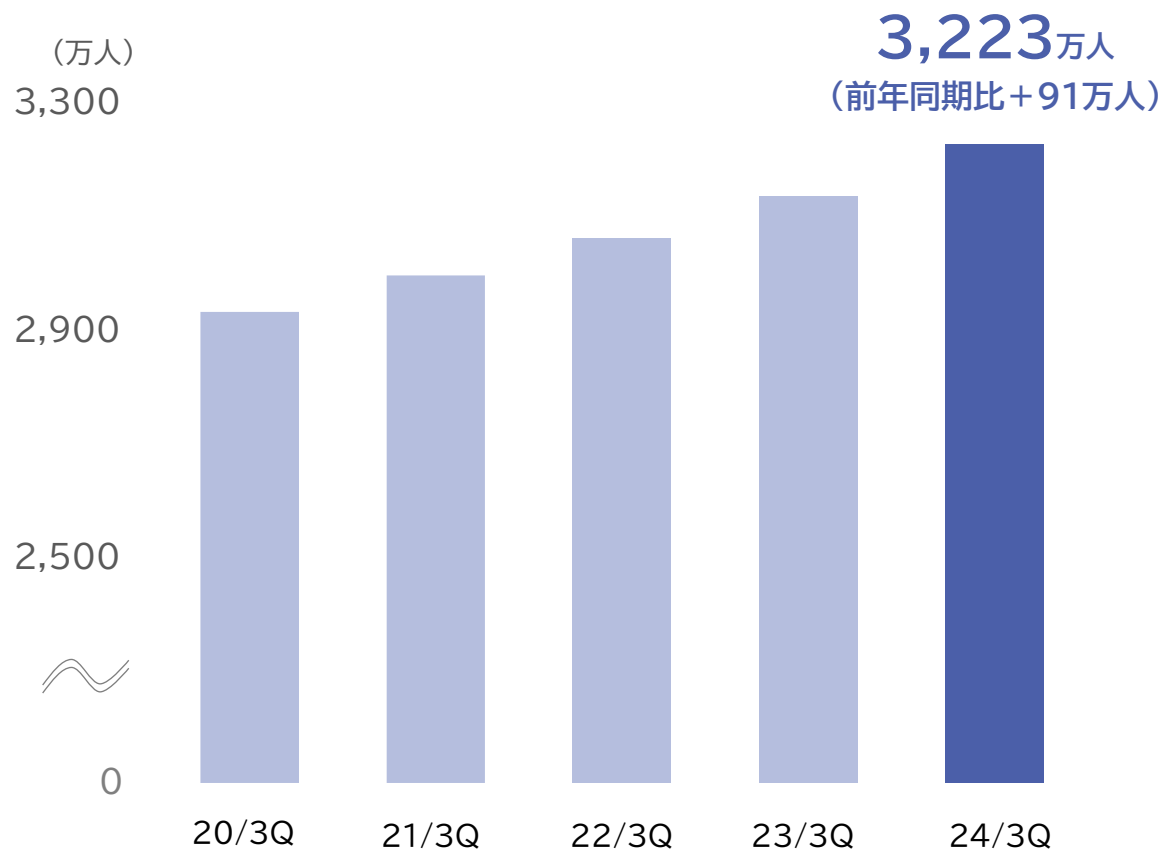
キャッシング取扱高



[国内] カード会員の状況

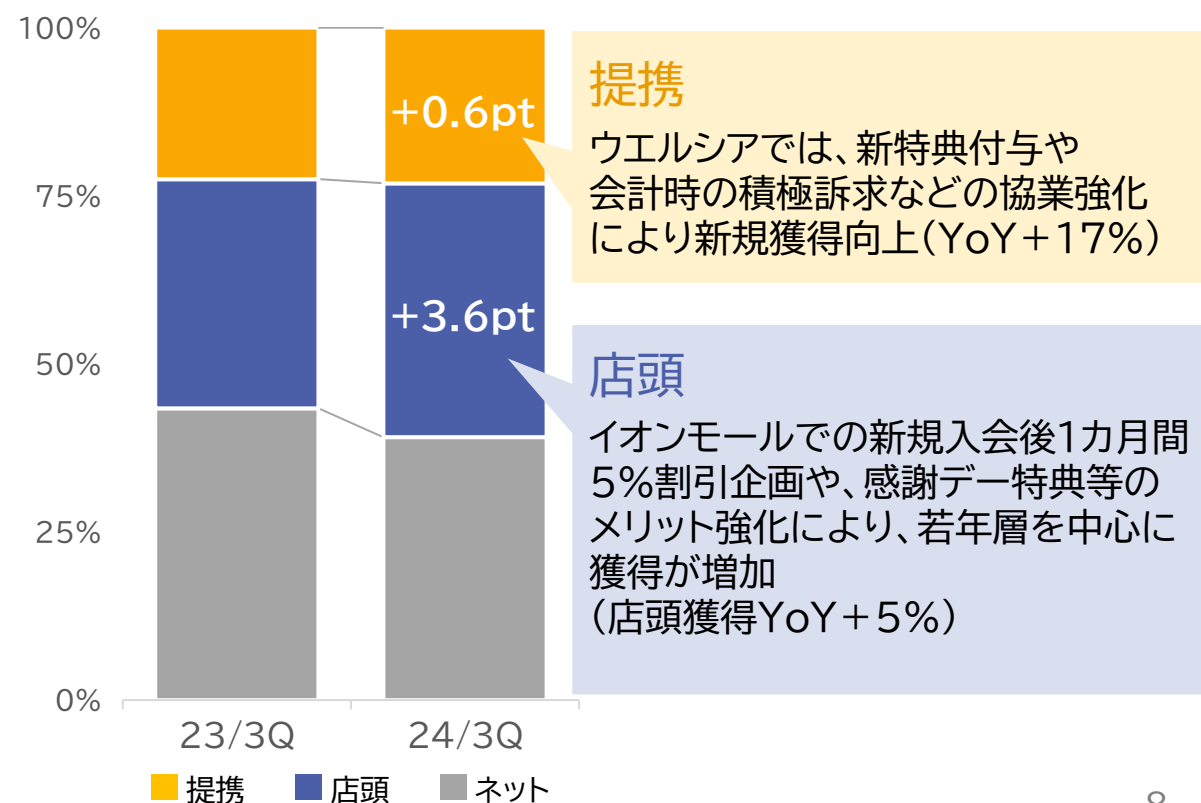
- 獲得チャネル、運用見直しにより獲得効率を重視しながら顧客基盤を拡充
- 累計カード会員獲得は119万人(YoY96%)、店頭での獲得伸長

国内有効会員数



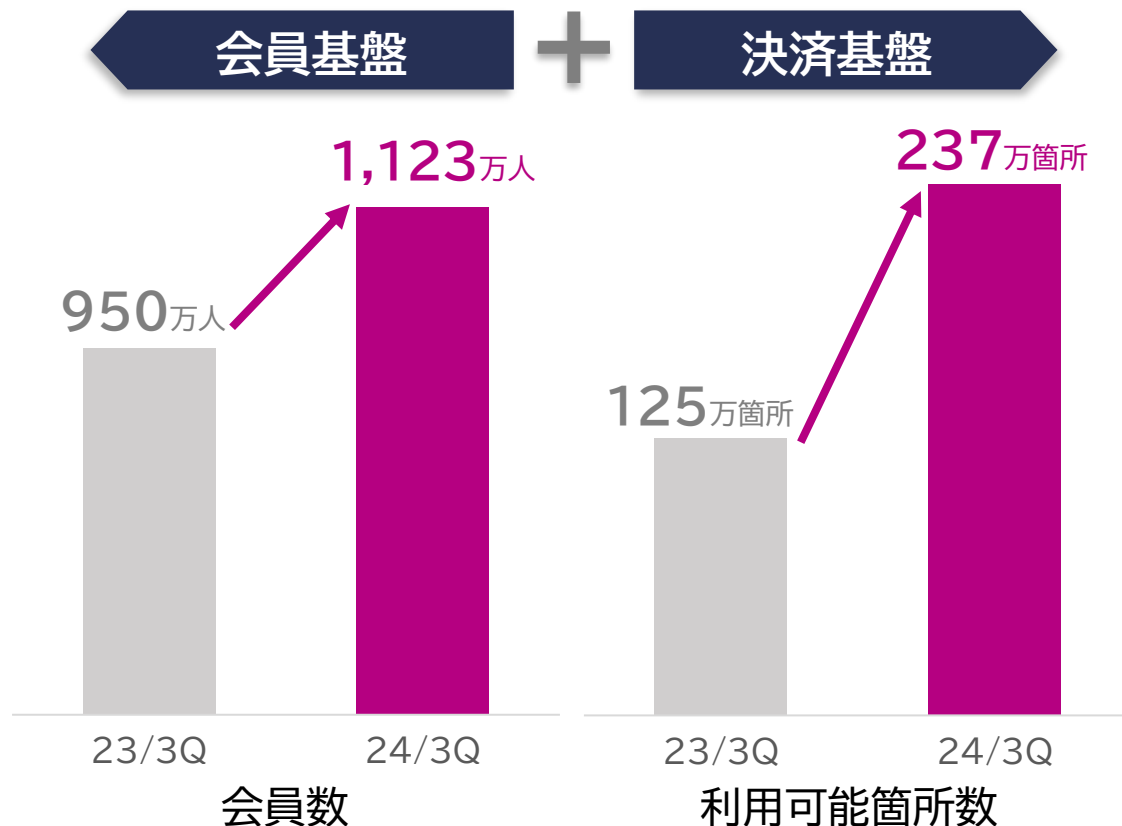
チャネル別 会員獲得構成

➢獲得効率を重視し、店頭および提携チャネル構成比向上



- 利用可能箇所数は期初目標290万箇所を達成する見通し
- グループアプリへの搭載による、イオングループの決済機能としての浸透を図る

会員数・利用可能箇所数



イオングループとの連携による利用拡大

1会員あたり利用額 **YoY + 25%**

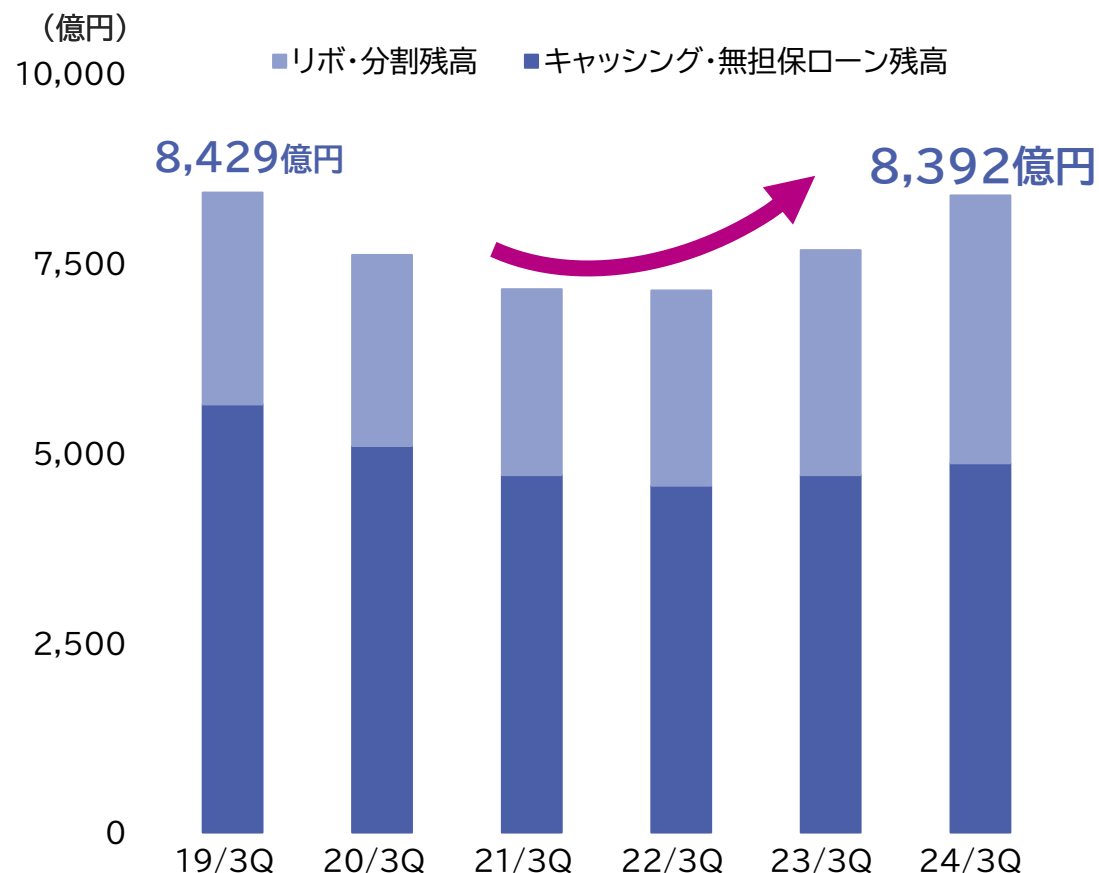


[国内] 高利回り債権残高の獲得状況

- アプリUI/UXの改善やAIをもとにした個別アプローチにより、債権残高は順調に増加
- リボ残高の堅調な積み上げより、24年度末の債権残高目標8,100億円を早期に達成

高利回り債権残高(債権流動化分を含む)

増減内訳

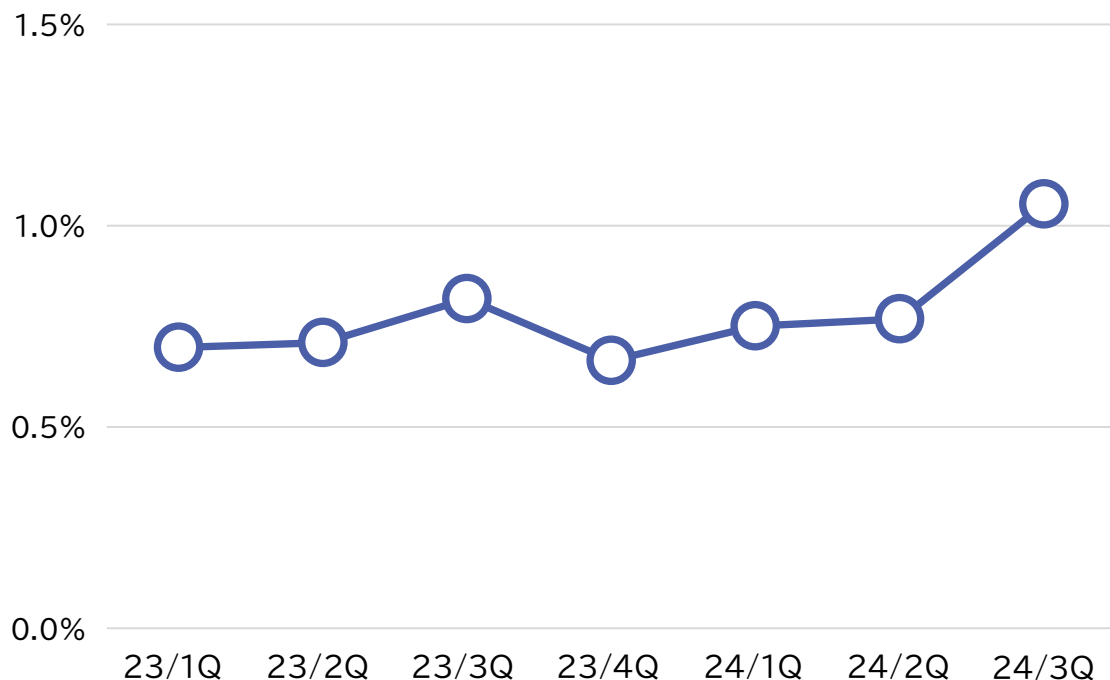


	YoY	期首差
■ ショッピングリボ	120%	+391億
■ 分割払い	113%	+27億
■キャッシング	104%	+208億
■ 無担保ローン (銀行カードローン等)	97%	▲5億
計	110%	+622億

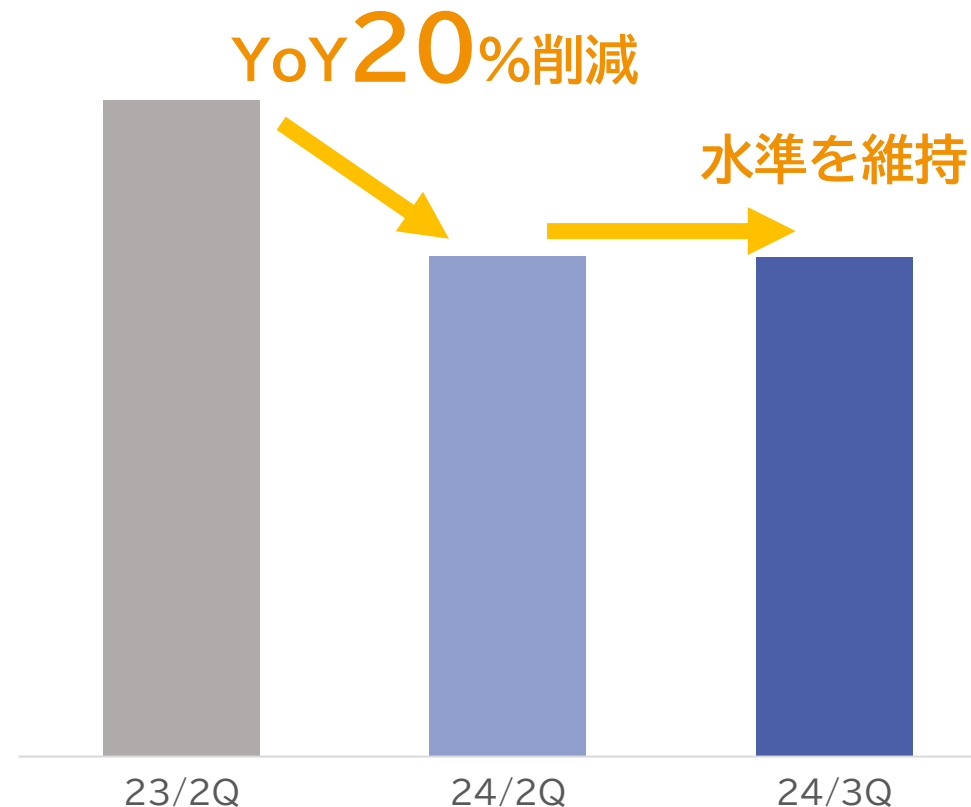
- 不正利用被害影響により貸倒関連費用率は上昇も、補償影響を除いた費用率は1%未満を維持
- 昨年同期からの運用見直しにより1会員あたり獲得コストは安定、効率改善が継続

貸倒関連費用率の四半期推移

※リボ・分割、キャッシング、無担保ローンの合計残高に対する貸倒関連費用率



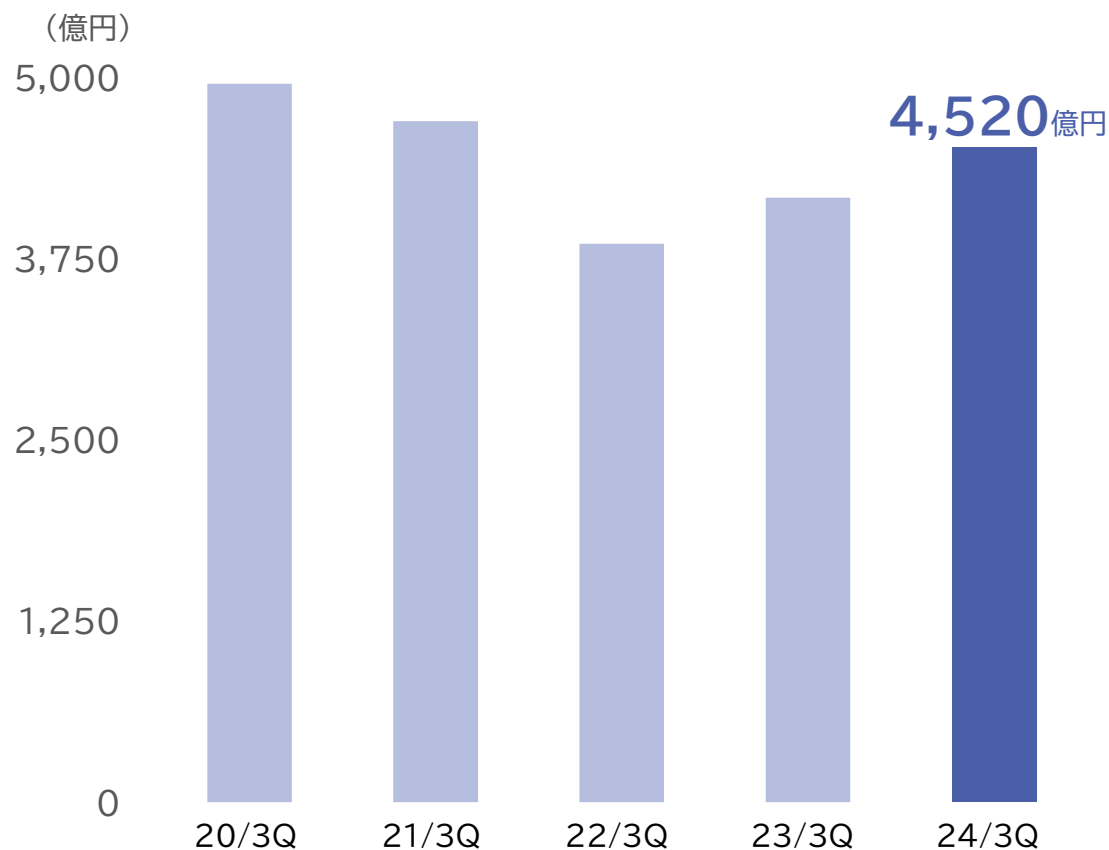
1会員あたり獲得コスト



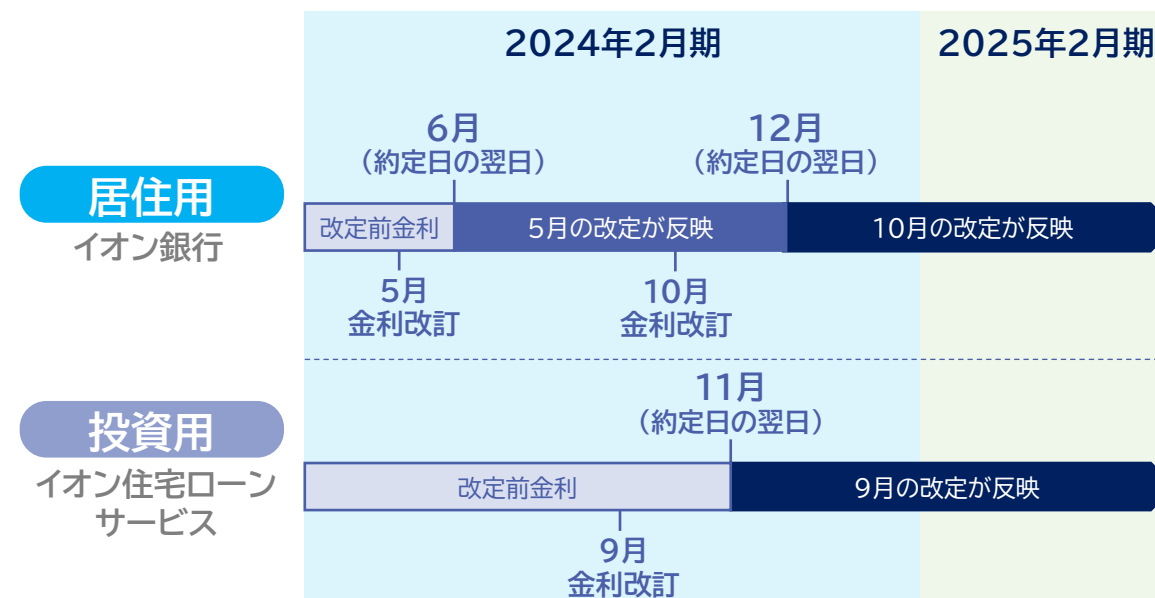
[国内] 住宅ローン

- ・ 小売と連携した金利以外の独自特典の継続訴求により、取扱高はYoY 108%
- ・ 居住用は5月と10月、投資用は9月に金利改定を実施し、今後の収益拡大を見込む

住宅ローン取扱高



住宅ローン金利改定と収益への反映

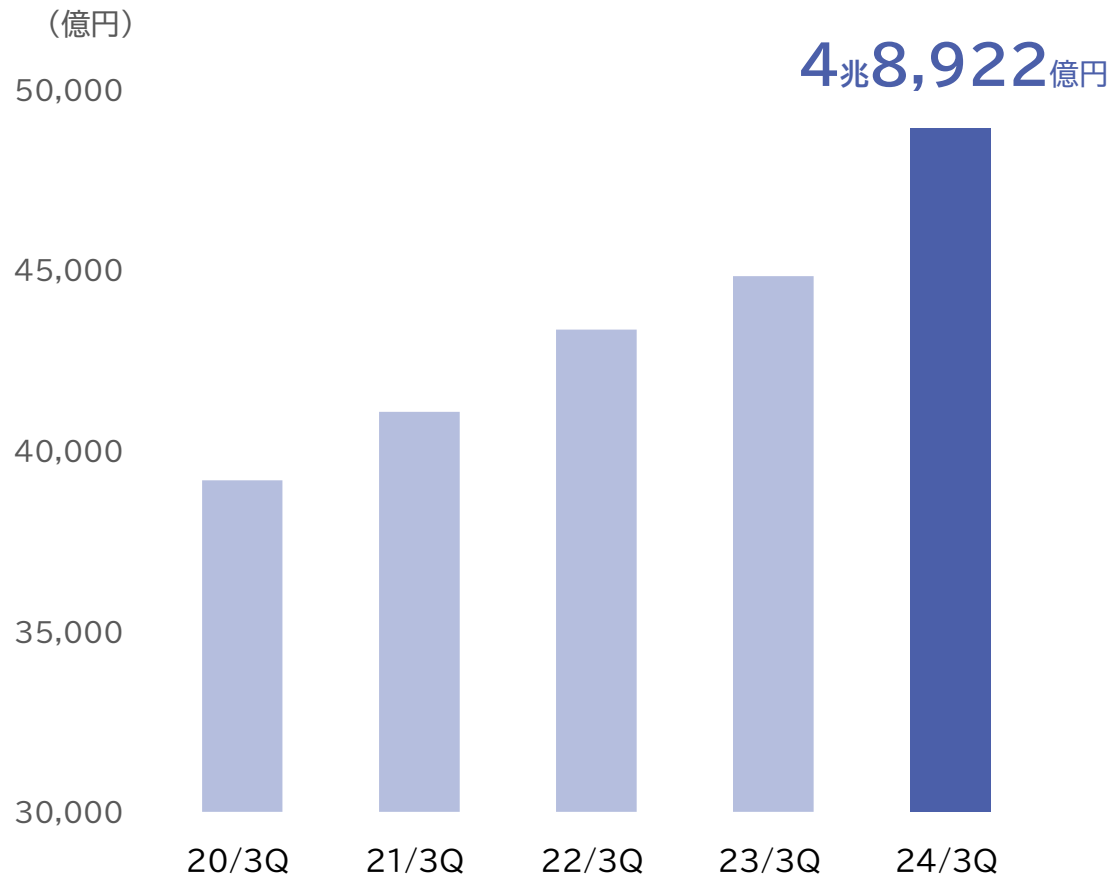


▶ 4Q～来期にかけて金利改定効果が増大

[国内] 銀行預金

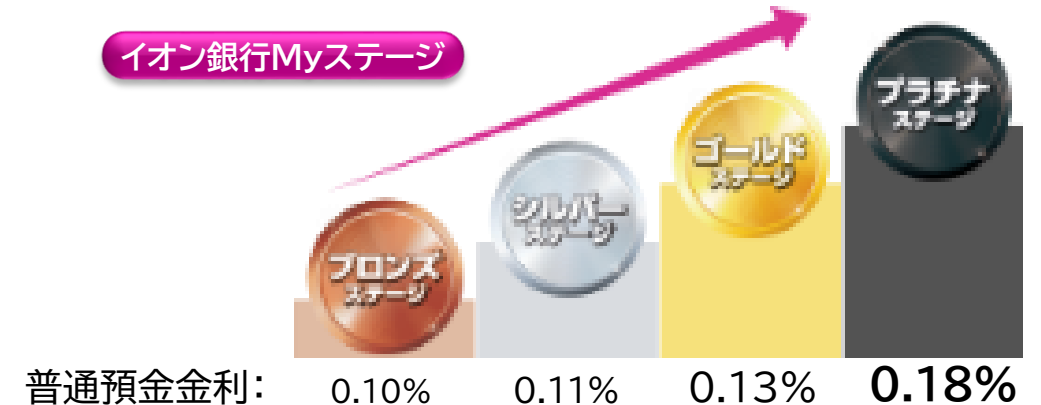
- 定期預金キャンペーンなどによりYoY109%、期首差3,528億円増となり過去最高
- 取引状況に応じた優遇金利の提供により、上位ステージの口座数、預金残高ともに増加

イオン銀行預金残高



預金獲得・クロスセルの推進

取引に応じたステージ別金利を提供



上位ステージの構成比拡大

- 各種取引(月間カード利用額、投信など)へのクロスセル推進に寄与

ゴールドステージ以上口座数 **YoY + 61%**

[国際] セグメント別 業績ハイライト

- ・ 営業収益は3エリアともに過去最高 マレー圏でのデジタルバンク費用を除けば増益
- ・ 会計期間(3か月間)では中華圏が増益に転換

3Q累計 (9ヶ月間)	国際事業		中華圏		メコン圏		マレー圏	
		YoY		YoY		YoY		YoY
営業収益	1,640 億円	114 %	260 億円	117 %	715 億円	106 %	664 億円	124 %
営業利益	253 億円	96 %	64 億円	101 %	102 億円	100 %	87 億円	88 %
<参考> 貸倒関連費用	534 億円	118 %	66 億円	139 %	254 億円	104 %	213 億円	133 %
3Q会計 (3ヶ月間)	国際事業		中華圏		メコン圏		マレー圏	
		YoY		YoY		YoY		YoY
営業収益	555 億円	113 %	87 億円	111 %	239 億円	107 %	229 億円	122 %
営業利益	78 億円	98 %	24 億円	118 %	34 億円	103 %	19 億円	76 %
<参考> 貸倒関連費用	183 億円	113 %	20 億円	108 %	80 億円	101 %	82 億円	128 %

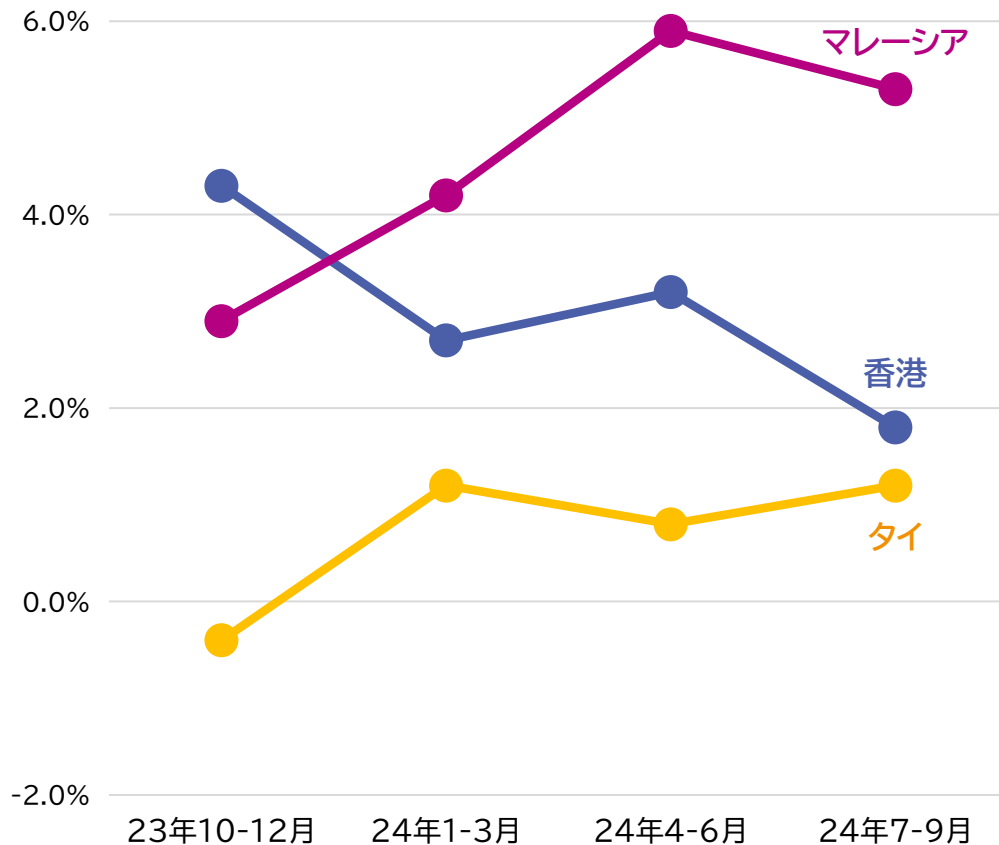
期中平均レート ※()内は前年同期差

HKD : 19.49円(7.3%円安) THB : 4.31円(6.2%円安) MYR : 33.46円(8.0%円安)

〔国際〕 各エリア別の環境

- マレーシアでは経済成長が高位で推移し、民間消費が好調
- 一方、香港は内需の減少や個人の破産申請件数の高止まりが継続、タイはGDP成長率も停滞

実質GDP成長率推移



マレー圏(マレーシア)

- 前四半期は下回ったが、政府が年間成長見通しを引上げ民間消費の好調が継続し、主要産業もプラス成長
- 失業率がコロナ後最低を更新(3.2%)し、雇用も安定

中華圏(香港)

- 物価の安い中国での消費(北上消費)が増加し、内需が減少したこと等で成長率が鈍化
- 個人の破産申請件数の増加傾向は変わらず

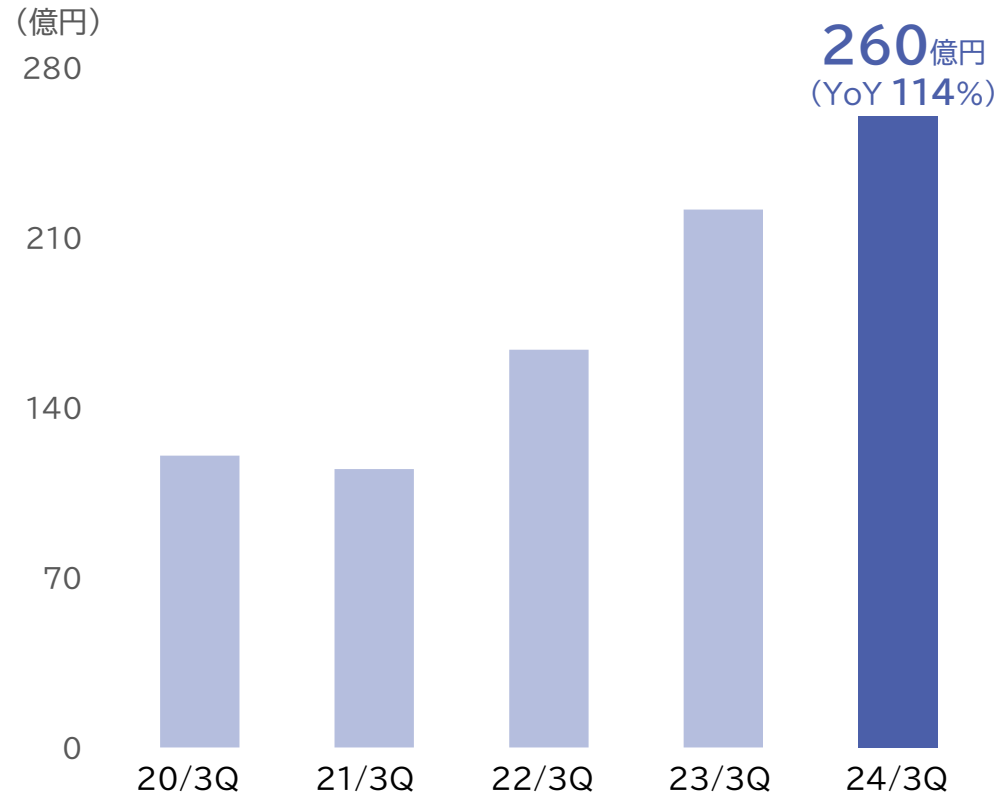
メコン圏(タイ)

- 物価高や金融機関の審査厳格化に伴い民間消費の成長は鈍化 輸出は農業・製造業ともに回復
- 1月より最低賃金を引上げと60歳以上に1万バーツを現金で配布開始予定(60歳未満には25年4~6月配布予定)

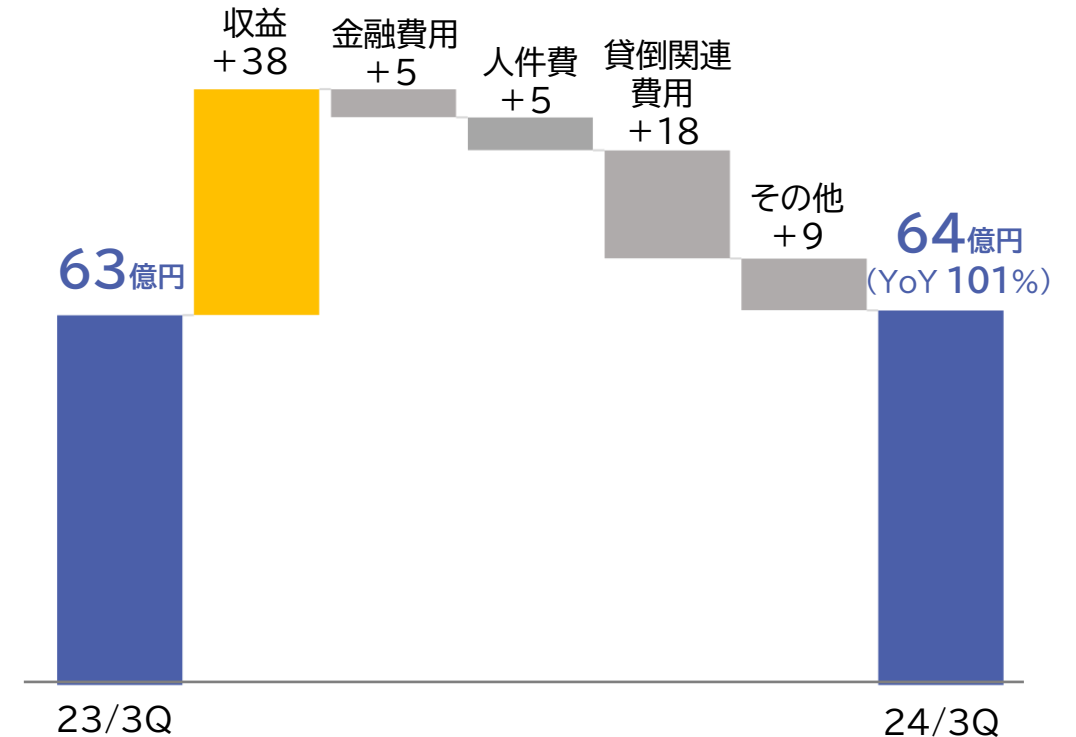
〔国際〕 中華圏の業績ハイライト

- 北上消費需要の取込みなど環境変化への対応が奏功、ショッピング取扱高は3Q会計期間で過去最高
- スコア活用による審査・途上与信強化により、前四半期と比較し貸倒関連費用を抑制 増益に転換

営業収益



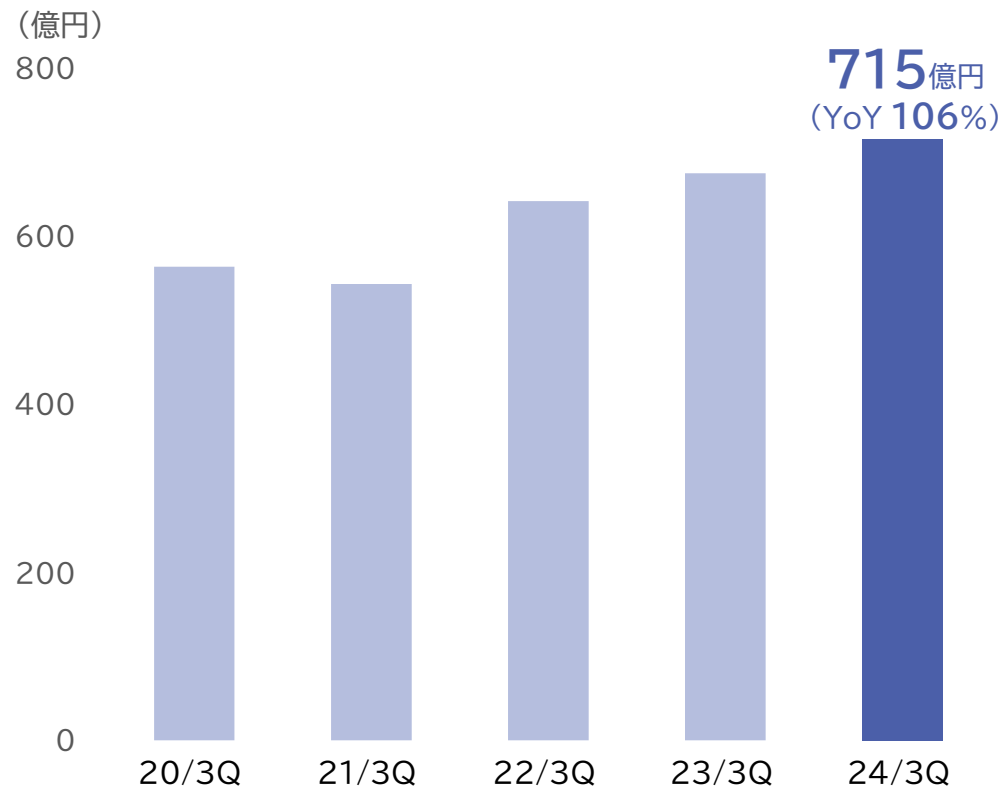
営業利益前期差内訳



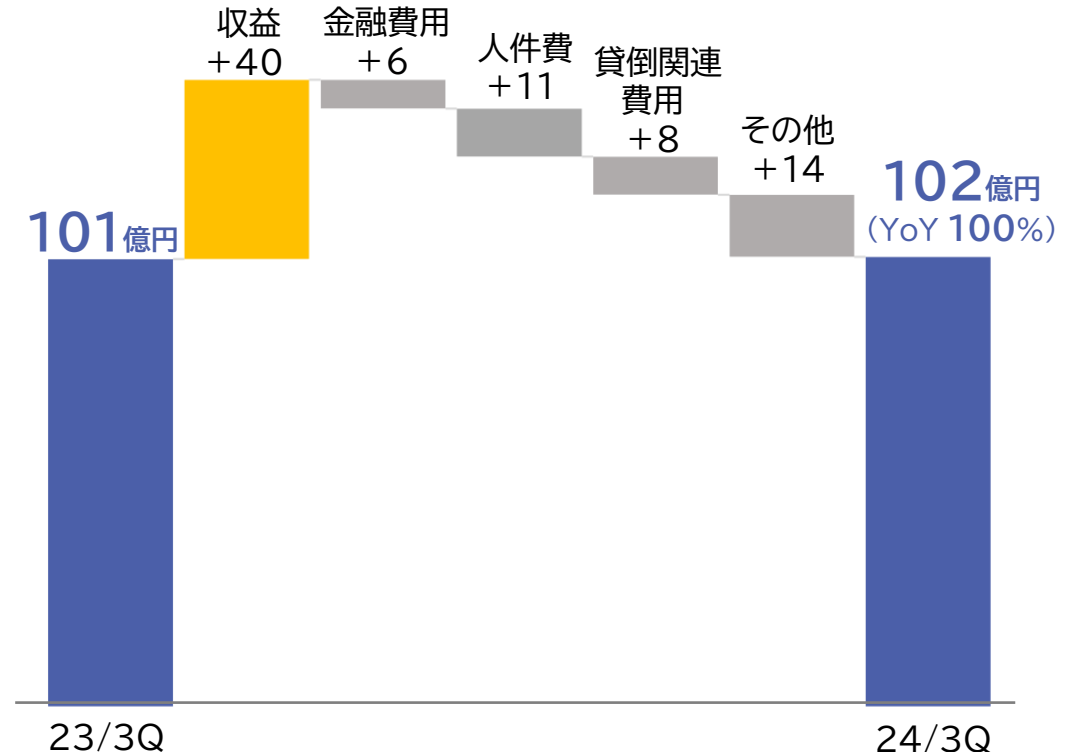
[国際] メコン圏の業績ハイライト

- 会員基盤の拡充、カードショッピングを中心とした取扱高が拡大
- 営業収益は増加も、人件費や貸倒関連費用の増加により、営業利益はほぼ前年同期水準

営業収益



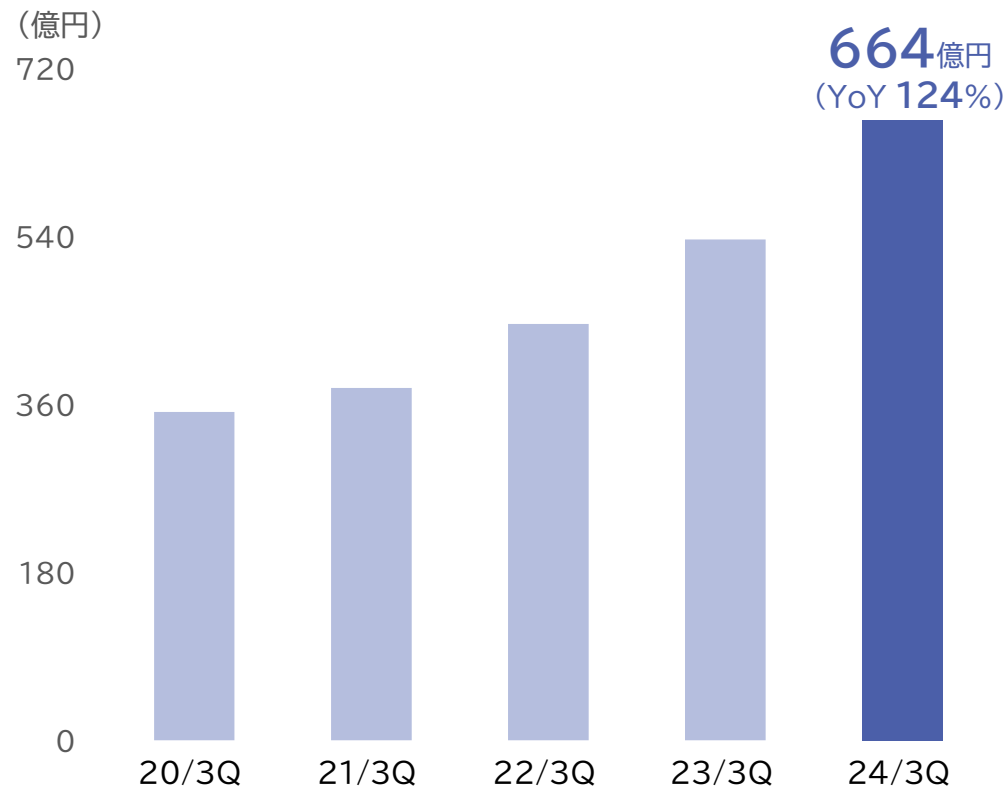
営業利益前期差内訳



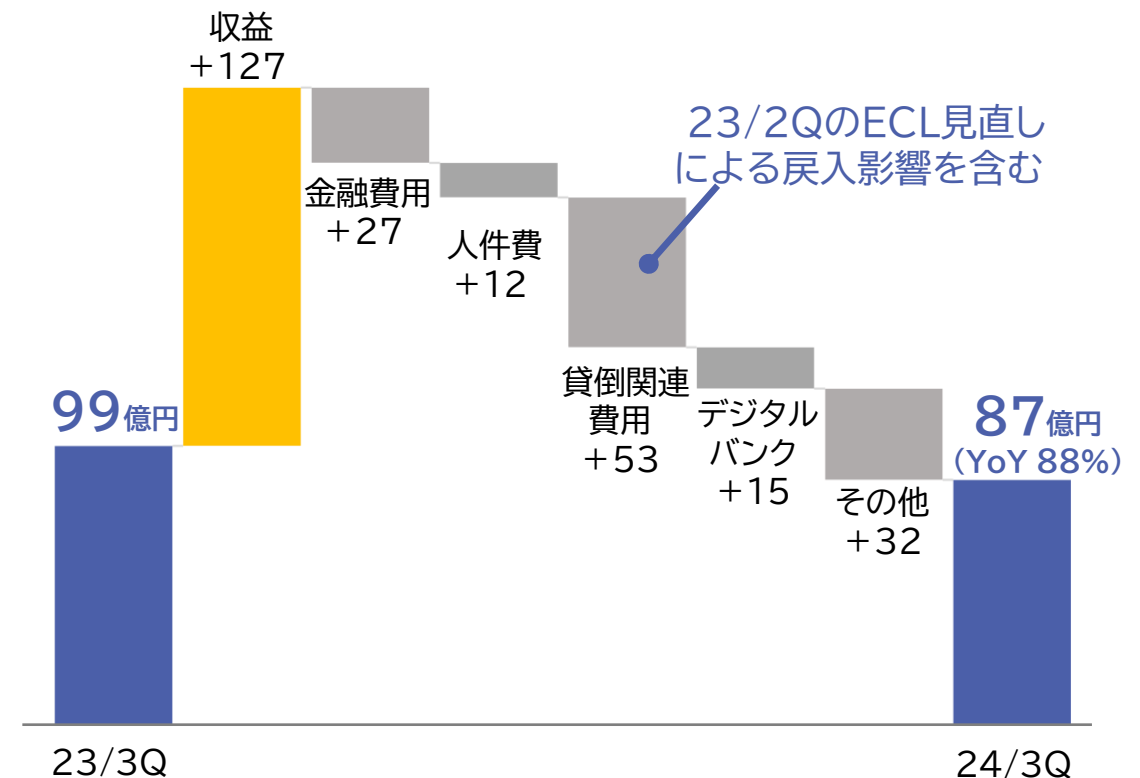
[国際] マレー圏の業績ハイライト

- 主力の個品割賦に加え、個人ローンの取扱高・残高が増加 収益は20%超の伸びを継続
- 貸倒関連費用は前年度の戻入影響、個人ローン残高増に伴い増加 デジタルバンク費用増を除けば増益

営業収益

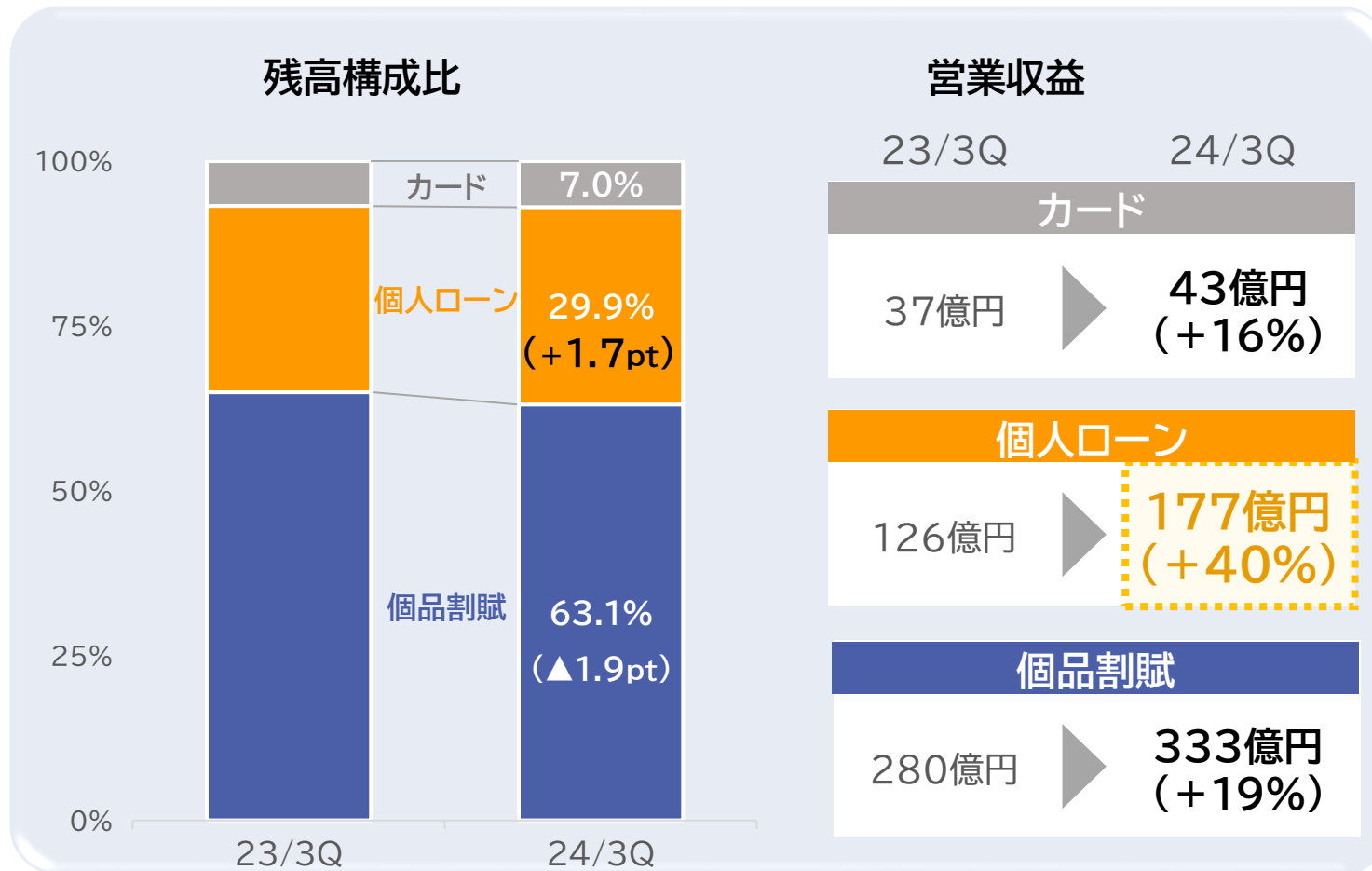


営業利益前期差内訳



[国際] マレー圏の業容拡大

- ・ 個人ローン残高構成比を拡大 経済環境の変化に強い債権ポートフォリオ構築を進める
- ・ 完全オンライン対応などの顧客利便性向上により、収益拡大に寄与



個人ローン拡大に向けた取組

24年8月
支払履歴など紐づけた新メンバー制度を
活用したマーケティングの開始

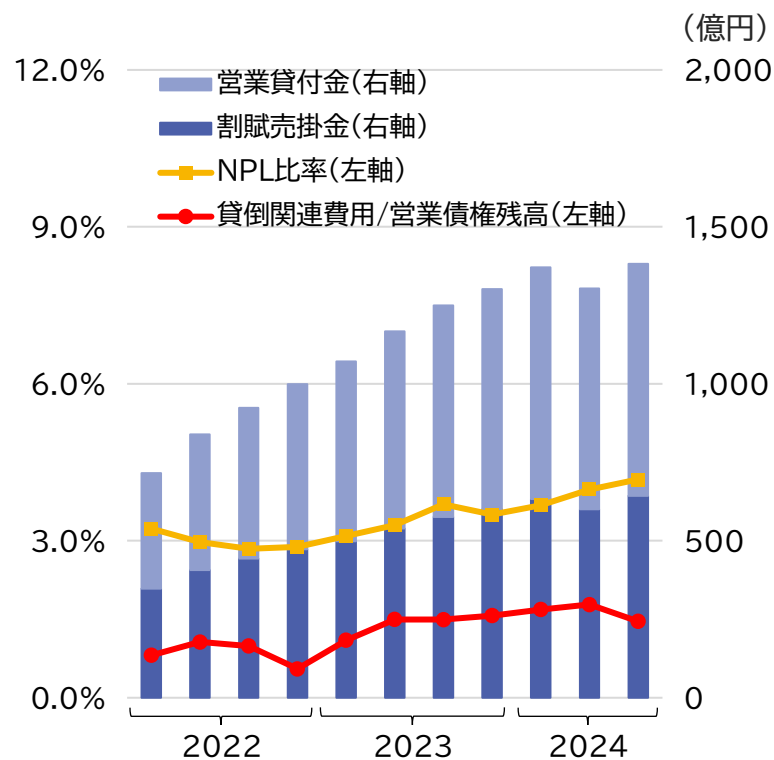
24年7月
アプリ導線の改善

23年10月
個人ローンの完全オンライン対応

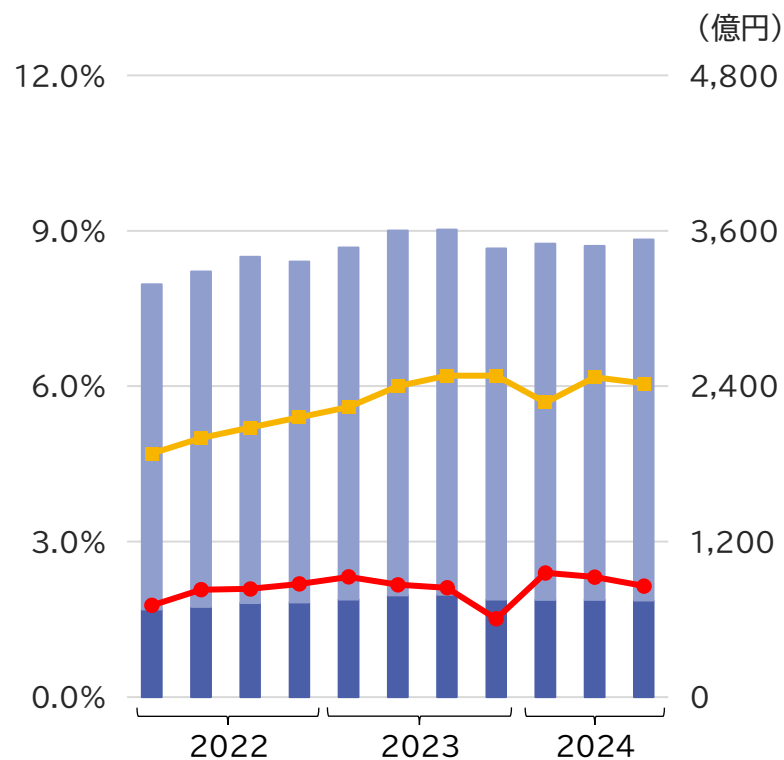
[国際] 上場子会社の債権残高およびNPL推移

- 香港: リストラクチャリング契約の打診によりNPL比率は上昇も、貸倒関連費用率は低下
- タイ: 2Qの洪水による引当金の戻りにより貸倒関連費用は減少 NPL比率は安定推移
- マレーシア: 債権残高の積み上げが好調に推移するも、NPL比率は安定

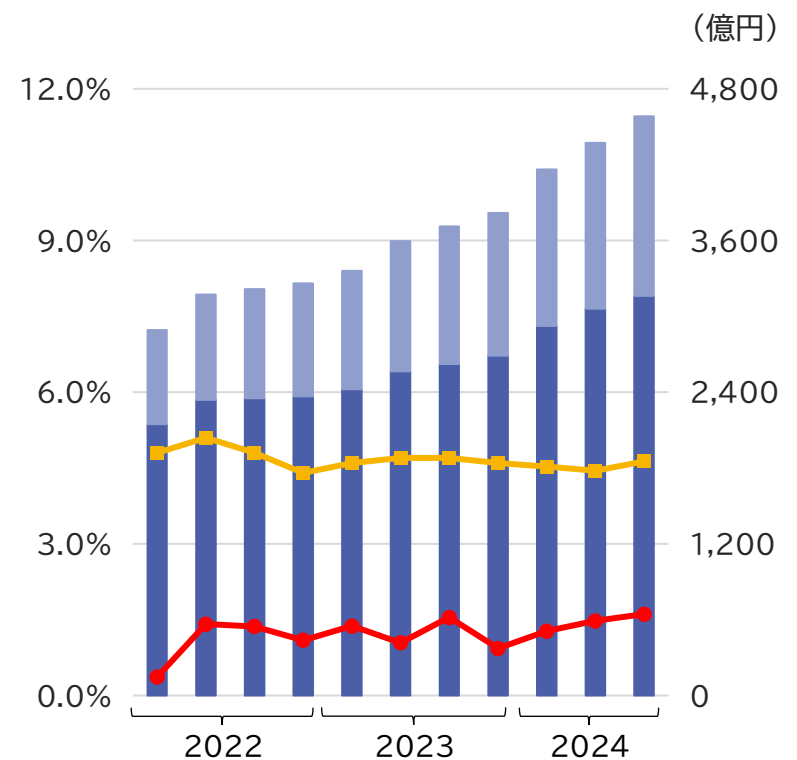
■ ACSA(香港)



■ AEONTS(タイ)



■ ACSM(マレーシア)



期末日レート ※()内は前四半期差

HKD : 19.37円(4.3%円安)

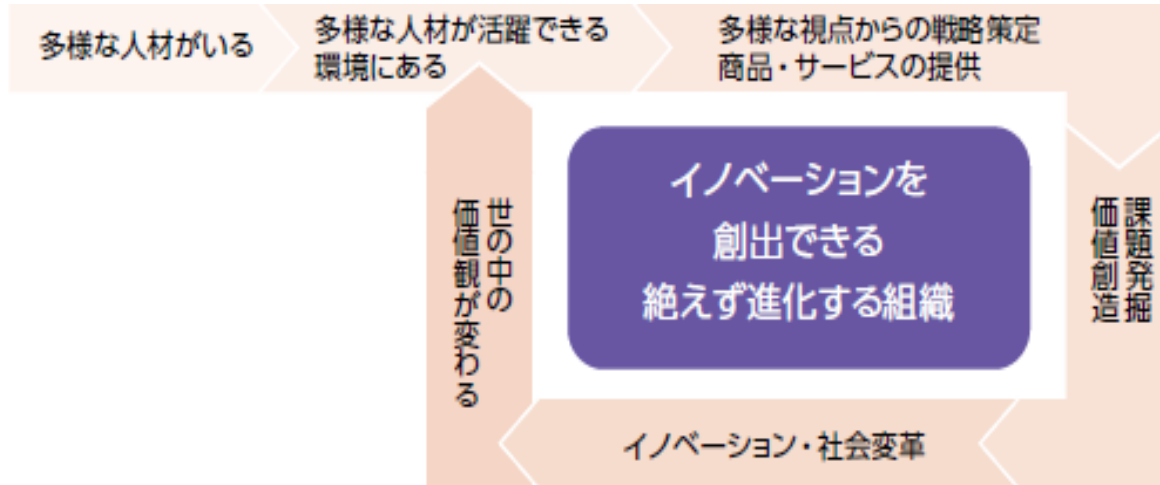
THB : 4.38円(2.8%円安)

MYR : 34.00円(1.3%円安)

サステナビリティの取り組み

DE&Iの推進

全従業員が自分らしく働きがいを持ち働くことができる社内環境の整備、意思決定層の多様化を重点課題として推進



- ・DE & I推進室新設し、取り組みを加速
- ・アンコンシャス・バイアス研修などの実施
- ・社内横断型の女性ネットワークの立ち上げ

外部ESG評価向上

ACSマレーシア
「サステナビリティ&CSRマレーシアアワード2024」
最優秀賞(金融サービス部門)受賞



マレーシアの社会経済変革へ貢献し、優れたコミュニティエンゲージメントに対して送られる「最優秀企業賞(金融サービス部門)」を受賞



重点实施事項

[事業ポートフォリオの見直し] イオングループの金融事業集約

- 電子マネーWAONバリュイシュア事業※1を集約。規模の経済を発揮し競争力を強化
- AEON Payと融合し、スマホを起点としたシームレスな決済体験へつなげる

顧客基盤の拡大

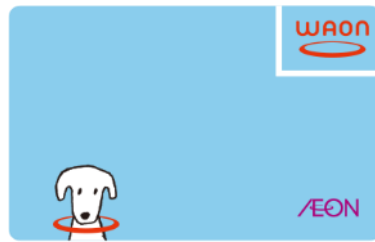
4,723万人

AEON Pay会員 1,123万人
WAON記名会員 3,600万人

*WAON累計発行枚数:1億526万枚

データ精度の向上・活用

WAON
(タッチ決済)



AEON Pay
(バーコード決済)



提携先・加盟店の拡充

利用可能箇所数

383万箇所

AEON Pay 237万箇所
WAON 146万箇所

地域等との連携

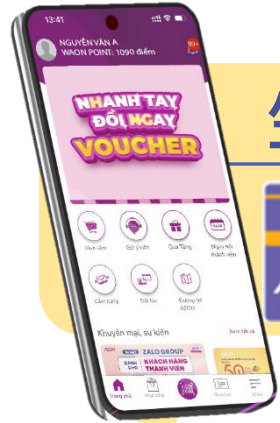
ご当地WAON 189種類

サッカー大好き
WAON 50種類

さらに魅力的な決済サービスの提供

〔事業ポートフォリオの見直し〕 ベトナムにおける事業拡大

- ・ 24年10月7日、ベトナムでのグループ共通ポイント「WAON POINT」を開始
- ・ ファイナンス会社取得によりさらなる顧客・加盟店基盤の拡大、イオン経済圏づくりを推進



生活圏拡大のインフラとしての共通基盤の整備



ACSTレーディングベトナムにて共通ポイント発行
グループ共通ID化を促進し、データ利活用基盤を構築

共通ID・デジタルを
活用した
イオン生活圏の拡大

共通ポイント
開始

ファイナンス会社
取得
(24年度4Q予定)

ファイナンス事業開始による基盤の拡大



24年12月30日、ベトナム国家銀行より持分取得承認を受領
会社取得後、個人向けローンに加え、クレジットカード等の
金融商品の展開を予定

[国内] リアルタッチポイントの再整理

- ・ マネックス証券との協業により、顧客の投資ニーズに応えると同時に事務オペレーション削減
- ・ 対面相談ニーズの高い保険を強化 店舗一体化によるさらなる生産性向上につなげる

外部リソース活用 による効率化

マネックス証券との提携



商品ラインナップの拡充

従来≫投資信託 約300商品

株式・債券・ETFなどを含む

約**1,700**商品

事務オペレーション削減

店頭の事務オペレーションに係る

時間を半減

顧客ニーズに合わせ店舗のあり方を再整理・生産性のさらなる向上へ

ワンストップサービス 提供による生産性向上

銀行・保険店舗の集約



ショッピングセンター内拠点を集約

従来≫銀行147店舗・保険105店舗 計252店舗

182店舗

接客機会の拡大

従業員スキルの向上による

人時生産性向上

[国内] グループシナジーの発揮

- ・ 中四国では、フジとの新たな提携カード発行により11万人を獲得
- ・ 北海道では旧西友店舗での決済需要の取り込み・新規会員の獲得を図る

FUJI 中四国エリア
約100店舗

フジとの新たな提携カードの発行

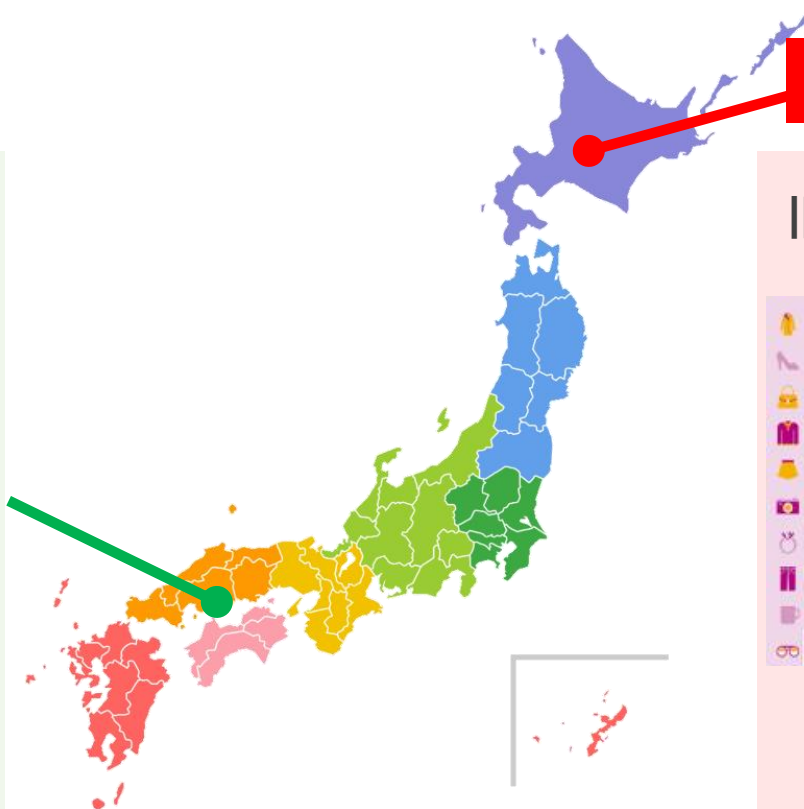
入会金
年会費
0円
あんしんの
盗難紛失保障付



5つの機能が1枚に

- エフカ
マネー
- エフカ
ポイントカード
- 電子マネー
WAON
- WAON POINT
カード
- クレジット
カード

旧エフカクレジットカード会員
11万人



旧・SEIYU 札幌市内9店舗

旧・西友店舗(北海道)での顧客獲得

AEON Pay
ご利用で
いつでも
WAON POINT
3倍!
2024 10/26 ~ 2023 2/28
※200円(税込)ごとに3ポイント



旧西友店舗 年間売上高
261億円

※2022年12月期

〔国際〕 生産性向上に向けた各国施策

生産性

- ・ 4Q以降の利益拡大に向けた施策として海外各エリアにて新たな商品の提供に加え、インドネシアでは新たな企業と連携し、AIによる与信業務の高度化を図る

■ 中華圏(ACSA)



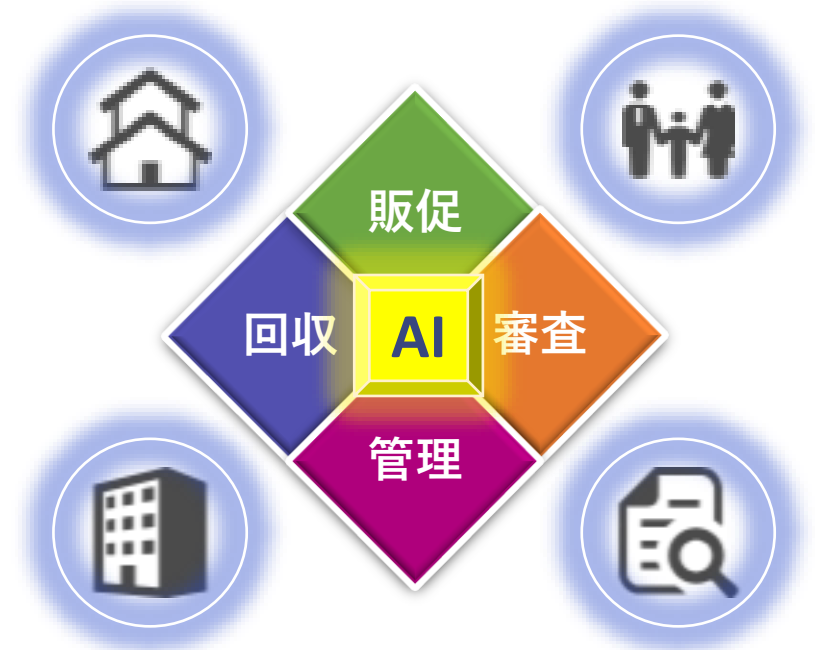
ECでの利便性向上に向け
自社アプリにバーチャルカード
機能を付加

■ メコン圏(AEONTS)

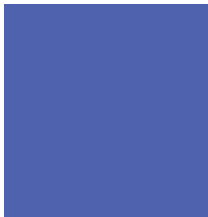


完全デジタルのクレジットカードの
第2弾となる若年層を対象とした
「PRiMO Digital Card」の新規発行

■ マレー圏(インドネシア)



モンゴルのAIテック企業と連携した
AIスコアリングによる
与信業務の高度化

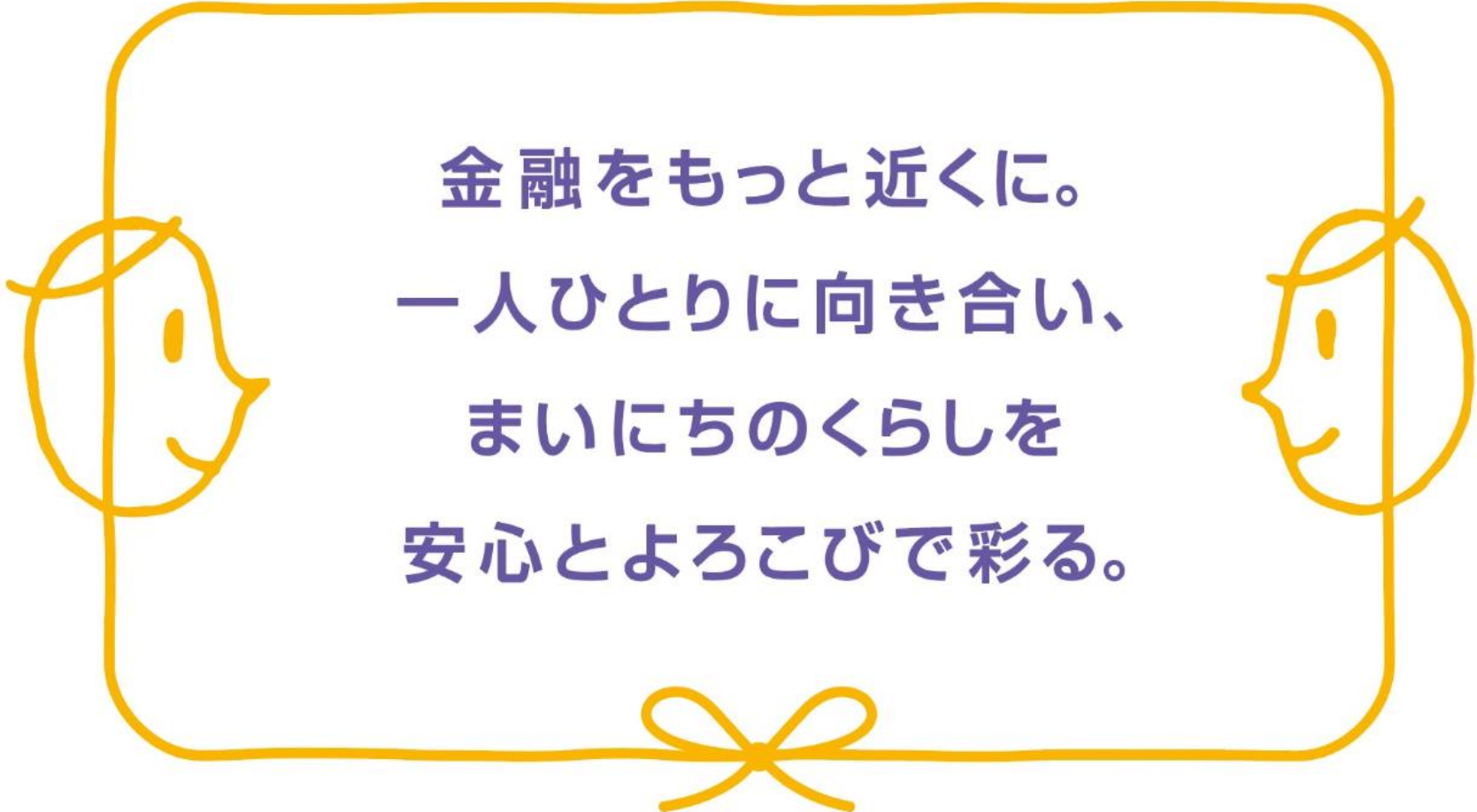


業績予想及び配当予想

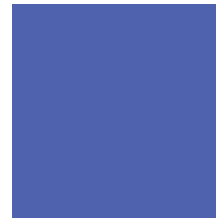
2025年2月期 業績予想及び配当予想

	連結	YoY				
			国内	YoY	国際	YoY
営業収益	5,200 億円	107 %	3,100 億円	105 %	2,100 億円	108 %
営業利益	550 億円	110 %	150 億円	129 %	410 億円	107 %
経常利益	550 億円	107 %	1株あたり配当金		配当性向	
親会社株主に 帰属する 当期純利益	210 億円	100 %	年間: 53 円	中間: 25 円 期末: 28 円	54.5 %	

Our Purpose



金融をもっと近くに。
一人ひとりに向き合い、
まいにちのくらしを
安心とよろこびで彩る。



Appendix

【再掲】 金利環境の変化

- 国内は銀行預金中心の調達の強み発揮 海外は借入利率の低下による利ざやの改善を想定

国内

海外

金利環境
(外部環境)

日銀の金融政策変更による
利上げ継続の見通し

米国の利下げに伴う
展開国での金利低下の見通し

資金調達

イオン銀行の預金を中心とした調達

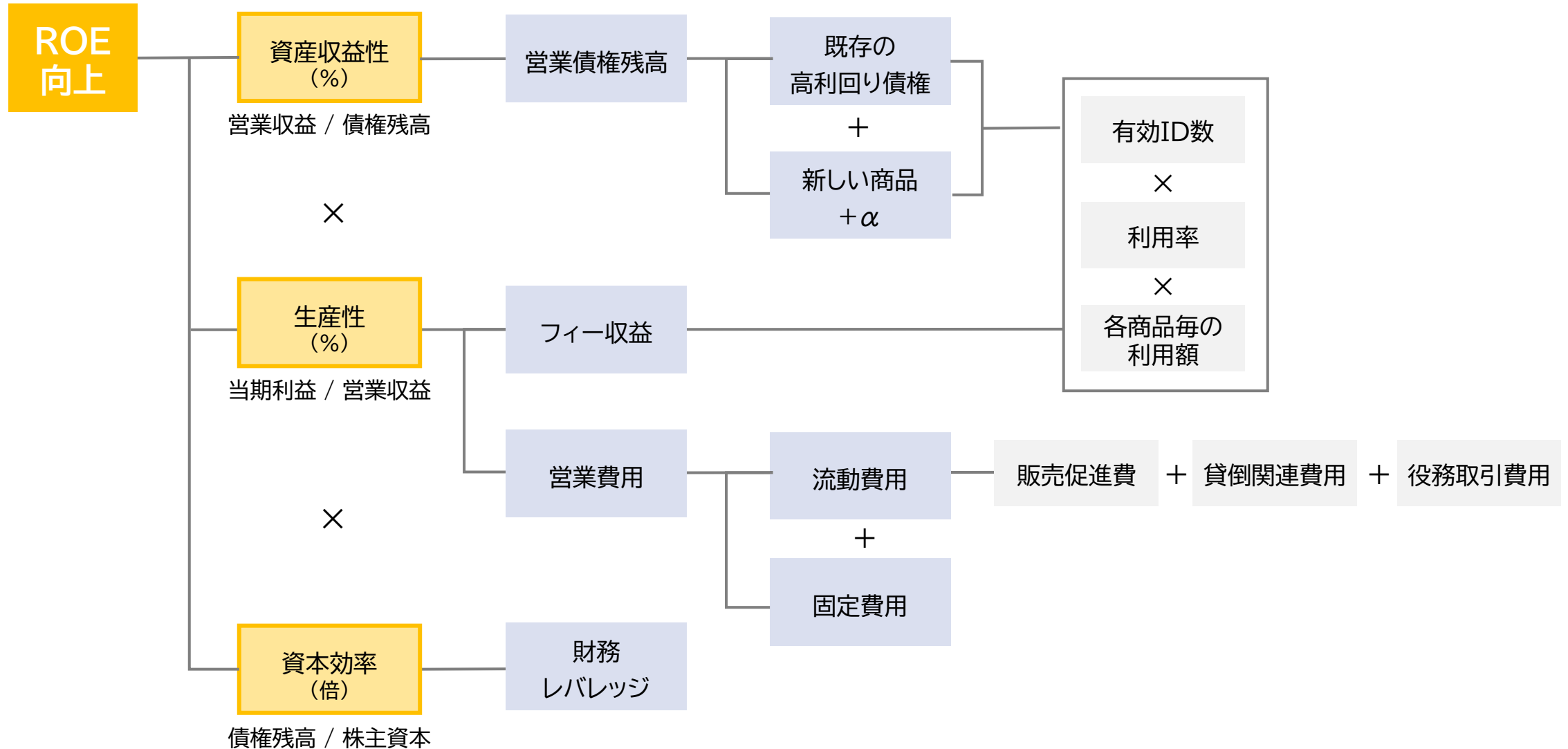
現地金融機関からの借入が中心

当社への影響

調達コスト増加はあるものの
変動金利のアセットの金利収益が増加し
中長期的な収支は改善

借入利率の低下による
収支の改善

【再掲】 ROE向上に向けた考え方



バランスシートの状況

(単位:億円)	FY 2024			FY 2024	
	3Q実績	期首増減		3Q実績	期首増減
現金預け金	5,337	▲ 1,317	預金	48,987	+3,604
営業貸付金	9,942	+754	買掛金	4,157	+1,472
銀行業における 貸出金	27,051	+3,659	有利子負債 (預金除く)	12,676	▲ 454
割賦売掛金	18,546	+ 111	その他	2,198	▲ 314
貸倒引当金	▲ 1,236	▲ 29	負債合計	68,020	+4,308
その他	14,203	+1,211	純資産合計	5,825	+82
資産合計	73,846	+4,390	負債及び 純資産合計	73,846	+4,390

セグメント別業績

(単位:億円)	国内計			国際計				連結計
	※1	リテール	ソリューション	※1	中華圏	メコン圏	マレー圏	※1
営業収益	2,264	1,449	1,376	1,640	260	715	664	3,887
前期比	106%	114%	99%	114%	117%	106%	124%	109%
営業利益	122	99	22	253	64	102	87	379
前期比	-%	-%	227%	96%	101%	100%	88%	145%
営業利益率	5.4%	6.8%	1.6%	15.5%	24.6%	14.3%	13.2%	9.8%
前期差	+5.7pt	+7.1pt	+0.9pt	▲3.0pt	▲3.9pt	▲0.8pt	▲5.4pt	+2.4pt

(参考) 債権流動化による収益影響 78 億円 (前期差▲39億円) ※2

※1 国内計及び国際計は、各事業に属するセグメント間取引の相殺消去後であり、連結計には、本社・機能会社および連結消去額を含む

※2 23年度より、流動化収益の計上方法を一部変更 なお、従来方式での収益影響は70億円(前期差▲27億円)

エリア別業容

(単位:億円)		取扱高	前年同期比	営業債権残高 (流動化前)	期首増減
国内	クレジットカード	58,480	106%	19,092	+1,928
	ショッピング	55,611	106%	14,760	+1,719
	(うちリボ・分割)	-	-	3,526	+419
	キャッシング	2,868	100%	4,331	+208
	住宅ローン	4,520	108%	38,432	+2,826
	その他	-	-	12,588	+824
	国内計	-	-	70,113	+5,579
国際	クレジットカード	5,211	123%	3,043	+84
	ショッピング	3,777	120%	1,558	+46
	キャッシング	1,434	131%	1,484	+38
	個品割賦	1,259	121%	3,382	+493
	パーソナルローン	1,725	111%	3,589	+380
	その他	-	-	1	+1
国際計		-	-	10,017	+960

海外上場3社 3Q業績（現地通貨）

		FY 2023	FY 2024	
		3Q累計実績	3Q累計実績	前年同期比
AEON CREDIT SERVICE (ASIA) HK\$' 000	Revenue	1,192,889	1,304,551	109%
	Profit before tax	339,443	328,748	97%
	Profit for the period	282,263	275,307	98%
AEON THANA SINSAP (THAILAND) BAHT' 000	Revenue	16,540,572	16,747,306	101%
	Profit before tax	2,767,690	2,644,652	96%
	Profit for the period	2,217,651	2,191,205	99%
AEON CREDIT SERVICE (M)Berhad RM' 000	Revenue	1,410,917	1,625,683	115%
	Profit before tax	402,579	333,811	83%
	Profit for the period	305,098	239,644	79%

海外上場3社 3Q業績（円換算）

		FY 2023	FY 2024		為替レート
		3Q累計実績	3Q累計実績	前年同期比	
AEON CREDIT SERVICE (ASIA)	Revenue	216億円	254億円	117%	<u>為替（円 / HKD）</u> ・ FY2023Q3 : 18.16円 ・ FY2024Q3 : 19.49円
	Profit before tax	61億円	64億円	104%	
	Profit for the period	51億円	53億円	105%	
AEON THANA SINSAP (THAILAND)	Revenue	671億円	721億円	107%	<u>為替（円 / THB）</u> ・ FY2023Q3 : 4.06円 ・ FY2024Q3 : 4.31円
	Profit before tax	112億円	113億円	101%	
	Profit for the period	90億円	94億円	105%	
AEON CREDIT SERVICE (M)Berhad	Revenue	437億円	543億円	124%	<u>為替（円 / MYR）</u> ・ FY2023Q3 : 30.98円 ・ FY2024Q3 : 33.46円
	Profit before tax	124億円	111億円	90%	
	Profit for the period	94億円	80億円	85%	

国際事業の各種取扱高、債権残高の状況

(単位:億円)		中華圏(香港)		メコン圏(タイ)		マレー圏		国際事業	
			前年同期比 (増減)		前年同期比 (増減)		前年同期比 (増減)		前年同期比 (増減)
クレジット カード	取扱高	1,970	121%	2,666	122%	575	129%	5,211	123%
	債権残高	1,057	+98	1,652	▲145	333	+69	3,043	+21
個品割賦	取扱高	-	-	208	131%	1,051	120%	1,259	121%
	債権残高	-	-	367	+80	3,015	+484	3,382	+565
個人ローン	取扱高	246	97%	895	111%	582	120%	1,725	111%
	債権残高	324	+34	1,833	+37	1,431	+331	3,589	+403
合計	取扱高	2,216	118%	3,770	120%	2,209	122%	8,196	120%
	債権残高	1,382	+133	3,854	▲25	4,780	+885	10,015	+990

セグメント別貸倒及び国内利息返還損失引当金の状況

【貸倒引当金】

(単位:億円)	国内計	リテール	ソリューション	国際計	中華圏	メコン圏	マレー圏	連結計
期首貸倒引当金残高	556	30	530	643	47	358	237	1,207
貸倒関連費用 (引当金繰入・損失)	212	0	212	534	66	254	213	774
貸倒償却額 (移管債権等含む)	237	5	231	480	62	247	171	745
期末貸倒引当金残高	530	24	511	697	51	365	279	1,236

※参考 国内子会社の期末残高
＜リテール＞ イオン銀行: 24億円
＜ソリューション＞ イオンフィナンシャルサービス: 497億円
イオン住宅ローンサービス: 12億円

※個品割賦事業譲渡による減少
92億円含む

【利息返還損失引当金】

(単位:億円)	FY2023 3Q実績	FY2024 3Q実績
期首残高	48	25
繰入額	-	-
利息返還額	22	13
期末残高	25	11

本資料のうち、当社の将来的な経営戦略や営業方針、業績予測等にかかわるものは、いずれも現時点において当社が把握している情報に基づいて想定、算出されたものであり、経済動向、業界での競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度等に関わるリスクをはじめとする様々な不確実要素を含んでおります。従って、将来、実際に公表される業績等はこれらの種々の要素によって変動する可能性があります。



イオンフィナンシャルサービス